



Level up your happiness



令和9年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

令和8年10月26日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社コーエーテクモホールディングス

コード番号 3635 URL <https://www.koeitecmo.co.jp/>

代表者（役職名） 代表取締役 社長執行役員CEO（氏名） 鯉沼 久史

問合せ先責任者（役職名） 専務執行役員CFO（氏名） 浅野 健二郎（TEL）045-562-8111

半期報告書提出予定日 令和8年11月10日 配当支払開始予定日 ー

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 令和9年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（令和8年4月1日～令和8年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
令和9年3月期中間期	37,327	19.4	11,743	47.4	25,523	43.4	18,596	38.1
令和8年3月期中間期	31,268	△11.2	7,964	△25.2	17,795	△15.3	13,465	△15.7

（注）包括利益 令和9年3月期中間期 39,239百万円（△15.5%） 令和8年3月期中間期 46,411百万円（256.4%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
令和9年3月期中間期	55.66	ー
令和8年3月期中間期	42.61	42.57

（注）令和9年3月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益は、潜在株式は存在するものの希薄化効果を有していないため、記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
令和9年3月期中間期	360,762	290,017	80.2	865.34
令和8年3月期	313,662	272,536	86.7	813.60

（参考）自己資本 令和9年3月期中間期 289,230百万円 令和8年3月期 271,813百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
令和8年3月期	ー	0.00	ー	66.00	66.00
令和9年3月期	ー	0.00			
令和9年3月期（予想）			ー	56.00	56.00

（注）1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2. 配当予想の修正については、本日（令和8年10月26日）公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 令和9年3月期の連結業績予想（令和8年4月1日～令和9年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	91,000	2.9	34,000	△8.5	51,000	△10.5	37,000	△13.6

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2. 連結業績予想の修正については、本日（令和8年10月26日）公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) 一、除外 一社(社名) 一

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(中間期)

令和9年3月期中間期	336,096,924株	令和8年3月期	336,096,924株
令和9年3月期中間期	1,859,476株	令和8年3月期	2,010,124株
令和9年3月期中間期	334,137,789株	令和8年3月期中間期	316,012,291株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、令和8年10月26日(月)にアナリスト向けの決算説明会をオンラインで開催する予定です。この説明会で使用する決算補足説明資料につきましては、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	
中間連結会計期間	6
中間連結包括利益計算書	
中間連結会計期間	7
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における世界経済は継続して緩やかに持ち直しているものの、地政学リスク等に伴う不透明感が続いています。

このような経営環境下において、第4次中期経営計画の2年目となる当期は、中長期での飛躍に向けた「成長のための基盤づくり」をテーマとして各種施策に取り組んでいます。

9月に「東京ゲームショウ2026」が開催され、発売予定タイトルの新情報を発信しました。期間中に発表された「日本ゲーム大賞2026」では、当社グループが企画及び開発に参画した『ぽこ あ ポケモン』^{※1}が年間作品部門で「大賞」を受賞しました。

当第2四半期はパッケージゲーム3タイトルを発売し、前年度に発売した大型タイトルやバックカタログの販売が好調に推移したこと等により売上高、営業利益は前年同期を上回りました。営業外収支は金融市場の動向を注視しながら運用を行い、計画を上回る利益を計上しました。

これらの結果、売上高373億27百万円(前年同期比19.4%増)、営業利益117億43百万円(同47.4%増)、経常利益255億23百万円(同43.4%増)、親会社株主に帰属する中間純利益185億96百万円(同38.1%増)となり、経常利益、中間純利益は中間期として過去最高の業績を達成しました。

セグメントの状況につきましては以下のとおりです。

エンタテインメント事業 売上高 342億9百万円 セグメント利益 114億67百万円

「シブサワ・コウ」ブランドでは、9月に『三國志14 with パワーアップキット Complete Edition』を発売しました。スマートフォンタイトルでは『三國志 覇道』と『信長の野望 覇道』が引き続き収益に貢献しました。

「ω-Force」ブランドでは『進撃の巨人3』を2026年12月10日に発売予定です。また、今年3月に発売した『ぽこ あ ポケモン』は発売後約4カ月で世界販売本数500万本を突破し、8月に追加コンテンツ『ぽこ あ ポケモン エキスパンションパス』の第一弾を配信しました。

「Team NINJA」ブランドでは、8月に『仁王3』のダウンロードコンテンツ第一弾「慶安地獄変」を配信しました。また『Wo Long: Fallen Dynasty Complete Edition』のNintendo Switch 2^{※2}版を9月に発売し、同シリーズの世界累計プレイヤー数は800万人を突破しました。最新作となる『Wo Long 2: Wings of Ember』は2027年3月4日に発売予定です。

「ガスト」ブランドでは『カリアのアトリエ ～夜の王国と追憶の道標～』を2027年2月25日に発売予定です。また、テレビアニメ『薬屋のひとりごと』初のコンシューマーゲームとなる、完全新作ストーリーのミステリアドベンチャー『薬屋のひとりごと～偽りの皇弟～』^{※3}(Nintendo Switch 2、Nintendo Switch^{※2}、PS5、Windows(Steam)用)を2027年3月18日に発売予定です。

「ルビーパーティー」ブランドでは、和風恋愛アドベンチャーゲーム『遙かなる時空の中で 龍宮の神子』の運営に注力しました。

「midas」ブランドでは、位置情報ゲーム『信長の野望 出陣』において3周年を記念したゲーム内イベント等を実施しました。

「AAAスタジオ」では、Nintendo Switch 2 向けに『ゼルダ無双 厄災の黙示録 DX』^{※4}を2027年2月25日に発売予定です。

IP事業においては、既存の許諾タイトルが引き続き収益に寄与しました。

※1 『ぽこ あ ポケモン』は株式会社ポケモン、株式会社ゲームフリーク、株式会社コーエーテクモゲームスが共同で企画及び開発を行ったタイトルであり、国内の発売元は株式会社ポケモン、海外の発売元は任天堂株式会社です。

※2 Nintendo Switch 及びNintendo Switch 2 は任天堂株式会社の商標です。

※3 『薬屋のひとりごと～偽りの皇弟～』は、東宝株式会社が展開するゲーム事業レーベル「TOHO Games」との協業です。

※4 『ゼルダ無双 厄災の黙示録 DX』の海外の発売元は任天堂株式会社です。

アミューズメント事業 売上高 24億46百万円 セグメント利益 3億86百万円

アミューズメント施設では既存店売上高が好調に推移しました。スロット・パチンコでは液晶ソフト受託開発に取り組み、開発受託2タイトルが稼働を開始しました。

不動産事業 売上高 6億91百万円 セグメント利益 1億60百万円

ライブハウス型ホールKT Zepp Yokohamaは、引き続き高い稼働率となりました。

その他事業 売上高 1億79百万円 セグメント損失 2億70百万円

ベンチャーキャピタル事業において、ファンドの管理費用が先行して発生したために損失を計上しました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当中間連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比較して471億円増加し3,607億62百万円となりました。これは主に、有価証券が405億80百万円、投資有価証券が259億84百万円それぞれ増加した一方で、現金及び預金が149億57百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当中間連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比較して296億18百万円増加し707億44百万円となりました。これは主に、未払金が177億28百万円、短期借入金が100億円、繰延税金負債が92億2百万円それぞれ増加した一方で、未払法人税等が64億82百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末と比較して174億81百万円増加し2,900億17百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が208億7百万円増加した一方で、利益剰余金が35億6百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和8年4月27日に公表した令和9年3月期の通期連結業績及び配当予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日(令和8年10月26日)公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (令和8年3月31日)	当中間連結会計期間 (令和8年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	61,275	46,317
売掛金及び契約資産	20,871	10,684
有価証券	53,882	94,463
商品及び製品	149	159
仕掛品	25	19
原材料及び貯蔵品	158	162
その他	3,246	7,969
貸倒引当金	△2	△0
流動資産合計	139,608	159,776
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	27,556	29,200
土地	27,964	27,964
建設仮勘定	1,773	0
その他(純額)	1,921	2,417
有形固定資産合計	59,216	59,583
無形固定資産		
その他	191	182
無形固定資産合計	191	182
投資その他の資産		
投資有価証券	101,687	127,672
退職給付に係る資産	7,482	7,891
繰延税金資産	2,490	2,476
その他	2,985	3,178
投資その他の資産合計	114,645	141,219
固定資産合計	174,054	200,985
資産合計	313,662	360,762

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (令和8年3月31日)	当中間連結会計期間 (令和8年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,068	1,225
短期借入金	-	10,000
未払金	8,480	26,209
未払法人税等	11,684	5,202
賞与引当金	2,299	2,251
役員賞与引当金	448	251
その他	6,368	5,650
流動負債合計	30,349	50,791
固定負債		
繰延税金負債	9,955	19,157
その他	820	796
固定負債合計	10,776	19,953
負債合計	41,125	70,744
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,000	15,000
資本剰余金	25,699	25,699
利益剰余金	207,329	203,822
自己株式	△3,747	△3,466
株主資本合計	244,281	241,055
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,910	42,718
土地再評価差額金	△3,101	△3,101
為替換算調整勘定	6,521	6,446
退職給付に係る調整累計額	2,200	2,111
その他の包括利益累計額合計	27,532	48,175
新株予約権	722	787
純資産合計	272,536	290,017
負債純資産合計	313,662	360,762

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

(中間連結損益計算書)

(中間連結会計期間)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 令和7年4月1日 至 令和7年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 令和8年4月1日 至 令和8年9月30日)
売上高	31,268	37,327
売上原価	14,030	16,939
売上総利益	17,238	20,388
販売費及び一般管理費	9,273	8,645
営業利益	7,964	11,743
営業外収益		
受取利息	5,457	10,336
受取配当金	303	619
投資有価証券売却益	0	4,165
有価証券償還益	128	2,137
デリバティブ評価益	4,461	889
その他	358	191
営業外収益合計	10,709	18,341
営業外費用		
投資有価証券評価損	146	-
有価証券償還損	589	1,907
為替差損	11	116
デリバティブ評価損	-	2,407
その他	130	129
営業外費用合計	877	4,560
経常利益	17,795	25,523
税金等調整前中間純利益	17,795	25,523
法人税、住民税及び事業税	4,272	6,910
法人税等調整額	58	16
法人税等合計	4,330	6,926
中間純利益	13,465	18,596
親会社株主に帰属する中間純利益	13,465	18,596

(中間連結包括利益計算書)

(中間連結会計期間)

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 令和7年4月1日 至 令和7年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 令和8年4月1日 至 令和8年9月30日)
中間純利益	13,465	18,596
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	32,407	20,807
為替換算調整勘定	574	△75
退職給付に係る調整額	△35	△89
その他の包括利益合計	32,945	20,642
中間包括利益	46,411	39,239
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	46,411	39,239

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前中間連結会計期間(自 令和7年4月1日 至 令和7年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	エンタテインメント	アミューズメント	不動産	計		
売上高						
外部顧客への売上高	28,312	2,294	635	31,242	26	31,268
セグメント間の内部売上高又は振替高	190	0	-	190	151	341
計	28,503	2,294	635	31,432	177	31,610
セグメント利益又は損失(△)	7,747	384	153	8,285	△320	7,964

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ベンチャーキャピタル事業等を含んでおります。

2. 管理部門等の報告セグメントに帰属しない本社費用については、合理的な配賦基準により各報告セグメントへ配賦しております。

II 当中間連結会計期間(自 令和8年4月1日 至 令和8年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	エンタテインメント	アミューズメント	不動産	計		
売上高						
外部顧客への売上高	34,173	2,444	691	37,309	18	37,327
セグメント間の内部売上高又は振替高	36	1	-	37	161	199
計	34,209	2,446	691	37,347	179	37,526
セグメント利益又は損失(△)	11,467	386	160	12,013	△270	11,743

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ベンチャーキャピタル事業等を含んでおります。

2. 管理部門等の報告セグメントに帰属しない本社費用については、合理的な配賦基準により各報告セグメントへ配賦しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。